＜総括＞

出題数	現代文　1題・古文　1題・漢文　1題 (経営学部は現代文1題・古文1題) (海洋政策科学部文系科目重視型は現代文1題)	試験時間　１００分 (経営学部は８０分) (海洋政策科学部文系科目重視型は６０分)

・本文――本文は、商品群が提示する物語を消費するようになった消費社会について論じた評論。硬質な文章で、受験生は苦労したと思われる。本文量は約 4,600 字で昨年に比べ約 700 字減少。
・設問――例年同様、部分読解型の問題と本文全体の論旨を踏まえる要約型の問題で構成されている。

＜本文分析＞

大問番号	一
出　典 (作者)	「消費社会とはどのような社会か？」(浅野智彦)
頻出度合 ・的中等	特になし
分　量 前年比較	分量（減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加）
難　易 前年比較	難易（易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化）

＜大問分析＞

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）
一	評　論	問一	記述式	標　準	傍線部の内容を 80 字以内で説明する問題。
		問二	記述式	標　準	傍線部の内容を 80 字以内で説明する問題。
		問三	記述式	標　準	傍線部の内容を 80 字以内で説明する問題。
		問四	記述式	やや難	本文全体の論旨を踏まえたうえで、傍線部の内容を 160 字以内で説明する問題。
		問五	記述式	標　準	漢字問題。「接触」「防衛」「厳密」「貢献」「戯画」の５問。
					※問一～問三の 80 字、問四の 160 字は昨年と同じ。

※難易度は５段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

＜学習対策＞

・長めの評論文を中心としてさまざまなジャンルの文章に接し、基本的な読解力を高めていくこと。
・文章の読解においては、まず、全体の趣旨を大きく把握することが肝要である。そのうえで、部分の内容を的確に読み取る力をつけていこう。
・また、答案作成においては、理解した事柄を簡潔・的確にまとめあげる力も養成しておかねばならない。その際、問四がそうであるように〈要約〉の練習が効果的である。

© 河合塾　2023 年

＜総括＞

出題数	現代文　1題・古文　1題・漢文　1題 (経営学部は現代文1題・古文1題) (海洋政策科学部文系科目重視型は現代文1題)	試験時間　１００分 (経営学部は８０分) (海洋政策科学部文系科目重視型は６０分)

・直近の出典は、歴史書、作り物語、説話、日記、軍記、歌物語と推移して、今年は説話だった。
・本文分量は、神戸大学古文の標準的な1000字前後よりかなり長かった。出典の特性に拠るものと思われる。
・設問数は6問から5問に復した。
・本文中に和歌は含まれていなかった。
・説明問題の分量の推移は以下の通りで、今年も例年並み。
　15年度：2問（すべて字数制限付きで、70字以内）
　16年度：3問（すべて字数制限付きで、70字以内・50字以内・80字以内が各1問）
　17年度：3問（すべて字数制限付きで、50字以内・50字以内・70字以内が各1問）
　18年度：2問（うち字数制限付きは、80字以内で1問）
　19年度：2問（すべて字数制限付きで、60字以内・50字以内が各1問）
　20年度：2問（すべて字数制限付きで、50字以内・70字以内が各1問）
　21年度：3問（うち字数制限付きは、50字以内・60字以内が各1問、あとは5字程度の抜き出し）
　22年度：3問（うち字数制限付きは、50字以内・40字以内が各1問、あとは制限なし）
　23年度：2問（すべて字数制限付きで、50字以内・60字以内が各1問）
・9年続いて文学史が出題された。昨年は記述式で問われたが、今年は客観式に復した。

＜本文分析＞

大問番号	二
出　典 (作者)	『発心集』(鴨長明)
頻出度合 ・的中等	出典は頻出
分　量 前年比較	分量（減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加）　約1650字　(昨年約950字)
難　易 前年比較	難易（易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化）

© 河合塾　2023年

＜大問分析＞

大問	ジャンル	設　問	設問形式	難易度	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）
二	仏教説話	問一	記述式	標　準	現代語訳の問題（４箇所）。昨年あった「わかりやすく」という条件が再びなくなった。 ①「年ごろありて」。「年ごろ」の訳出、「あり」の具体化がポイント。 ②「さるべきにこそあらめ」。慣用表現の訳出がポイント。 ③「あはれ、ただ今制し給へかし」。「あはれ」、「給へ」「かし」の訳出がポイント。 ④「火水に入る苦しみなのめならず」。慣用表現「なのめならず」の訳出がポイント。
		問二	記述式	標　準	理由説明の問題。「このこと、げにと覚えず」のように思った理由を六〇字以内で説明する。傍線部の直後の発言内容をまとめる。
		問三	記述式	標　準	理由説明の問題。「このこと、さもと聞こゆ」のように筆者が感じた理由を五〇字以内で説明する。「このこと」の指示内容が「ある人」の発言であることをふまえて、蓮花城の逸話を用いて解答する。
		問四	記述式	やや易	文法の問題。空欄ａ・ｂ・ｃ・ｄに助動詞「べし」を適切な活用形に直して入れる。
		問五	選択式	標　準	文学史の問題。『発心集』と同じジャンルの作品を五つの選択肢から選ぶ。

※難易度は５段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

＜学習対策＞

・文法や現代語訳の設問は定番であるので、指示語や接続語などの文脈をとらえつつ、文法や語法に留意した丁寧で正確な訳出を普段から心がけたい。
・記述式説明問題は、例年、各問 40～80 字程度で問われるので、古文学習の際には、その本文の要約を常に練習するように心がけるとよい。普段の訓練が効果を発揮するものである。
・文学史について、成立年代、ジャンル、作者など、基本的なものは押さえておきたい。

© 河合塾　2023 年

＜総括＞

出題数	現代文　1題･古文　1題･漢文　1題 (経営学部は現代文1題・古文1題) (海洋政策科学部文系科目重視型は現代文1題)	試験時間　１００分 （経営学部は８０分） (海洋政策科学部文系科目重視型は６０分)

「江淹夢筆」という標題のついた故事。南朝梁の江淹が夢で五色の筆を返してから文才を失ったという話。出典の『蒙求』は児童教育のために南北朝時代までの著名人の言行をまとめたものであり、平易で読みやすい。設問数は昨年度と同様４つであったが、解答箇所は７つで、昨年より１つ増えた。書き下しの箇所は昨年と同様に２つであるが、昨年度まではなかった「読み方をすべて平仮名で書きなさい」いう問いが設けられ、３か所問われた。現代語訳は昨年度の２つから１つに、字数制限ある説明問題も昨年度の２つから１つに減少した。書き下しを問う傍線部は例年どおり白文であったが、現代語訳と説明問題の傍線部には返り点・送り仮名が付いており、語の読みの傍線部にも送り仮名が付いていた。

＜本文分析＞

大問番号	三
出　典 （作者）	唐『蒙求』（李瀚）
頻出度合 ・的中等	稀
分　量 前年比較	分量（減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加）（昨年）197 字→（本年）166 字
難　易 前年比較	難易（易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化）

＜大問分析＞

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）
三	史伝	問一	記述式	標準	語の読みの問題。①「字（あざな）」②「少（わかくして）」③「都（すべて）」の読み。
		問二	記述式	やや易	書き下し文の問題。(ア)「還」を「かえす」と読み、「見」を受身の助動詞と判断する。「可（べし）」が終止形接続である点にも注意する。(イ)「所」が返読文字であることに注意する。
		問三	記述式	やや易	現代語訳の問題。「有」を「持つ」と訳すこと。
		問四	記述式	やや難	内容説明の問題。話の展開を正しく読み取って、設問の条件に合うようにまとめるが、制限字数内にまとめるのには工夫が必要である。

※難易度は５段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

＜学習対策＞

重要語句と句形の知識に習熟し、特に白文を読む力を身につけておくこと。問題文全体の構成を考えながら、文章の展開を正確に読み取る訓練を積んでおく必要がある。さらに答案を簡潔に要領よくまとめる訓練もしておくこと。

© 河合塾　2023 年